

区内に残る日本の近代化の歴史を巡って

（北区の近代化産業遺産、歴史的建造物が残る風景）

「近代化産業遺産」とは、産業近代化の過程を物語る存在として継承されている、数多くの建築物、機械、文書を国が認定したもので、中には世界遺産として登録され、多くの人が見学に訪れるところもあります。自分たちの身近な場所で見られる施設が、当時の産業にとって重要な役割を担っていたということを知ること、当時の歴史を体感するきっかけになります。北区にもこうした「近代化産業遺産」がまちの身近なところに複数存在しています。そこで今回は、区内の「近代化産業遺産」を歴史的な背景とともに紹介します。

北区の「近代化産業遺産」とは

昨年6月、群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が日本の近代産業遺産としては初めてユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界遺産に登録され、大きな盛り上がりを見せました。また、平成19年に島根県の「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産に登録され話題となったことも記憶に新しいところでは。

この2つの場所は世界遺産登録以外にも国の「近代化産業遺産」として認定されているということです。

国は、平成19年度及び平成20年度に、産業近代化の過程を物語る存在として継承されている数多くの建築物、機械、

文書を「近代化産業遺産」として認定しています。その認定は地域史・産業史の観点で行われ、「近代化産業遺産群33」「近代化産業遺産群続33」の計66のストーリーで取りまとめられ公表されています。

北区では、「製紙業の歩み」と「治水・砂防の歩み」の2つのストーリーの中で、計6施設が「近代化産業遺産」の認定を受けています。

これらの施設は都心でも珍しく、当時の近代化の様子を身近に感じることが出来る歴史的にも貴重な場所となっています。



王子に洋紙産業が発祥した理由は、波沢栄一氏の決断に依るところが大きかった（画像は波沢史料館）

ストーリー「製紙業の歩み」

王子に製紙業が誕生した理由

北区では、平成19年度に、「洋紙の国内自給をめざし北海道へと展開した製紙業の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、渋沢史料館、紙の博物館、東書文庫、国立印刷局王子工場及び東京工場（旧滝野川工場）の5つの施設、所蔵物が国の認定を受けています。

明治時代以降、多種多様な企業の設立・経営に関わった渋沢栄一氏が、明治初期に新聞や雑誌等の必要性を感じて紙の大量生産を考え、王子に抄紙会社（紙を作る会社）を設立しました。いわば、北区王子は我が国の「洋紙発祥の地」といえます。

もともと、抄紙会社が北区王子にできたのは、この地が豊富な水資源に恵まれていたことが大きな理由となっています。当時、王子周辺を流れる千川用水や石神井川は良質で水量が豊富であつたため、製紙業を行うには条件が適していました。

また、工場で使用する原料や製品を船で運搬できたこともそのひとつです。

製紙業を感じる施設や資料

◆紙の博物館、渋沢史料館

「紙の博物館」や「渋沢史料館」では、こうした近代産業の始まった歴史的な経緯などを知ることができます。

「紙の博物館」は、旧王子製紙が戦前に集めていた資料をもとに昭和25年に設立された博物館です（当時の名称は製紙記念館）。和紙・洋紙を問わず、古今東西の紙に関する資料を幅広く収集・保存・展示する世界有数の紙の総合博物館として知られています。

「渋沢史料館」は製紙業でこの地にゆかりのある渋沢栄一氏の事績と思想



「紙の博物館」では和紙・洋紙を問わず紙の歴史を知ることができる（画像提供 紙の博物館）

を紹介する博物館です。昭和57年に、渋沢栄一氏の旧邸「暖依村荘」跡（現在北区飛鳥山公園の一部）に設立された登録博物館で、旧邸内に残された「晚香廬（洋風茶室）」と「青淵文庫（書庫）」（現在は国指定重要文化財）等で開館されました。平成10年3月には本館を増設して、諸資料の展示により、日本の資本主義の父として今なお注目され続ける渋沢栄一氏を知り、学び、考える場所となっています。

◆国立印刷局王子工場、東京工場（旧滝野川工場）

抄紙会社ができてからは、国がお札や切手の製紙工場を設立したり、教科書の製本会社が事業拡大のために北区に移転してきました。

国立印刷局 東京工場（旧滝野川工場）は現在、工場見学を休止していますが、王子工場に併設する施設「お札と切手の博物館」では、お札や切手の歴史的背景を学ぶことができます。

◆東書文庫

「東書文庫」は、東京書籍株式会社の創立25周年を記念して、昭和11年に設立された教科書図書館です。鎌倉時代から現代までの教科書約15万5千点を所蔵し、そのうち7万6千点余りが



教科書の歴史と内容を知ることができる「東書文庫」



国立印刷局王子工場内にある「お札と切手の博物館」（画像提供 国立印刷局）



「渋沢史料館」はこの地にゆかりのある渋沢栄一氏の事績と思想を紹介（画像提供 渋沢史料館）

国の重要文化財に指定されています。

これらの「近代化産業遺産」をめぐることで、洋紙発祥の地である北区王子の歴史の流れを知ることができます。

【旧岩淵水門】も治水の近代産業遺産として認定。赤水門とも呼ばれている



荒川放水路・旧岩淵水門

平成20年度に「国土の安全性を高め都市生活や産業発展の礎となった治水・砂防の歩みを物語る近代化産業遺産群」として旧岩淵水門、荒川放水路が国の認定を受けています。

荒川（下流は現在の隅田川）は、かつて「荒ぶる川」として氾濫を繰り返

ストーリー「治水・砂防の歩み」

していました。旧岩淵水門は大正5年から8年の歳月をかけて、パナマ運河建設に携わった青山士（あおやまあき

ら）氏が工事監督人となり、最新の治水技術を導入して建設されました。

また、荒川放水路は約20年の歳月をかけ建設され、この2つの治水事業が荒川下流域に住む人々の暮らしを洪水から守ってきました。

旧岩淵水門に代わり、現在は下流の青い岩淵水門が水門としての役割を果たしています。旧岩淵水門は、北区景観百選、東京都選定歴史建造物、土木学会「日本の近代土木遺産」にも選定されています。

治水の歩みを知る

水門の近くには荒川知水資料館（通称 アモア（amoa））があります。荒川に関するさまざまな情報を発信していて、館内には、荒川放水路の歴史がわかるコーナーや川で洪水が起こった時、流域の町がどのように浸水するのか20地点でシミュレーションした映像もあります。土日祝日には、ボランティアによる館内案内も行っています。

「近代化産業遺産」の今後

ツアーイベントを計画

北区には、「近代化産業遺産」に係るさまざまな歴史的建造物や碑なども残されており、それらを巡ること

により深く歴史を知ることができます。北区王子の5つの施設については、毎年「北区産業遺産めぐりスタンプラリー」を開催し、身近にある地域の歴史

を知るイベントとして好評を博しています。旧岩淵水門は北区王子の5つの施設とともに、北区が発行する「北区近代化産業遺産ガイドマップ」に観光コースとともに紹介されています。こ

近代化産業遺産とともに区内の史跡を巡る楽しみもある。洋紙発祥の地の碑



のガイドマップには、歩いて出会える北区の名品も掲載されており、北区の名品を味わいながら近代化の歴史を感じることもできます。

区では「北区観光振興プラン」に「産業遺産を楽しむプログラム」を位置づけて、北区の産業遺産の歴史や技術について楽しんで学ぶことができます。また、渋沢史料館では産業などに関するシンポジウム・講演会を開催しています。近代化産業遺産に対する盛り上がりは今後も高まっていきそうです。



区では近代化産業遺産めぐりスタンプラリーも実施した